ＪＰＨＦ論文フォーマット

プラント一郎\*、ヒューマン二郎\*、ファクター三郎\*\*

安全大学工学部経営工学科＊、株式会社安全第一＊＊

Style Format for JPHF Papers

Ichiro PURANTO\*, Jiro HYUMAN\*, Saburo FAKUTA\*\*

Anzen University\*, Anzen Daiichi Corp.\*

これは、日本プラント・ヒューマンファクター学会の投稿論文（査読を必要とする原稿、以下原稿）向けフォーマットです。このフォーマットを直接編集して執筆して頂くことを推奨しますが、体裁がこのフォーマットに準ずる限りにおいては、ご自分で執筆して頂いても構いません。

This is a format for papers that are to be submitted to the Society of Industrial Plant Human Factors of Japan. Any paper that needs reviewing should follow this format. Authors are advised to edit this format directly to write your own papers, but you can also write your papers from the scratch as long as the papers strictly follow this format.

（キーワード：余白、マージン、フォント、行間、図表）

* 1. はじめに

査読を必要とする原稿（以下、原稿）を執筆する際には、このフォーマットを参考にしてください。このフォーマットを直接編集して執筆して頂くことを推奨しますが、このフォーマットを参考にしながらご自分で執筆して頂いても構いません。

* 1. ページレイアウト

原稿はA4用紙を用い、

　左マージン20mm,　右マージン20mm

　上マージン30mm,　下マージン30mm

の中で、ワープロ等で印刷してください。提出原稿がそのまま掲載されますので、出来る限りきれいな出力でお願いします。

* 1. 表題、要旨等

3-1.　表題、著者名、所属機関名

第1ページはじめに、表題、著者名、所属機関名を日本語、英語で表記します。日本語表題は15ポイント、英文表題および著者名は12ポイント、所属機関名は10ポイントとし、日本語はゴシック体フォント、英文は太字（Boldタイプ）の欧文フォントを用います。また、それぞれ中央にそろえてください。

3-2.　要旨

要旨を和文（400字程度）あるいは英文（200字程度）に簡潔にまとめて書きます。和文要旨、英文要旨のいずれかがあれば十分ですが、和文、英文ともに掲載することも可能です。字間は約1.6mmとし、10ポイント、通常の欧文フォントの文字を用いてください。

3-3.　キーワード

英文要旨の下に5つ以内のキーワードを付けます。文字は10ポイント、ゴシック体フォントとします。

英数文字、コンマ、ピリオド、ハイフン、小数点は半角文字とし、欧文フォントとします。

例：（キーワード：人的過誤、誤操作、意思決定モデル）

* 1. 本文

英文要旨、キーワードに続き、本文を書きます。本文は2段組みとし、一段当たりの字数は全角25文字（字間1.6mm）とし、行間5.9mm、段間は10mmを基本とします。第2ページ以降の書き方も同じですが、行数は40（行間5.9mm）にしてください。英数文字、コンマ、ピリオド、ハイフン、小数点は半角文字とし、欧文フォントとします。

Fig.1 Change in the necessary time with progress in gain of control input

図1　ゲインの増加に伴う所要時間の変化

4-1.　見出し

見出しは、章では1.○○、2.△△、節では1-1.□□、2-3.××とします。章第の文字は12ポイント、ゴシック体フォント、節第は10ポイント、ゴシック体フォントとしてください。

4-2.　図表

図表は、本文中の適切な位置に、適切な大きさで組み込んでください。図表は、段をまたがって描かれてもよいですが、左右上下の各マージンよりはみ出さないように注意してください。また、図題は図の下に、表題は表の上に、それぞれ図番号、表番号を添えて日本語、及び英語で表記します。表題、図題とも10ポイントとし、日本語はゴシック体フォント、英文を太字（Boldタイプ）の欧文フォントを用いてください。

　グラフは、図1を参照し、縦軸、横軸の目盛りを入れ、縦軸、横軸の説明に用いる文字の向きに注意してください。また、グラフに用いる文字の大きさ、フォンとは執筆者の裁量にまかせますが、日本語はゴシック体フォント、英数文字は太字（Boldタイプ）の欧文フォント、文字の大きさは10ポイントを基本とします。

　表に用いる文字は、10ポイント、日本語はゴシック体フォント、英数文字は太字（Boldタイプ）の欧文フォントとします。

|  |
| --- |
| 表1　項目ごとのフォントTable 1 Font for each item |
| 項目 | フォント | ポイント |
| 表題（日） | ゴシック体 | 15 |
| 著者名（日） | ゴシック体 | 12 |
| 所属機関名（日） | ゴシック体 | 10 |
| 表題（英） | 欧文フォント | 12 |
| 著者名（英） | 欧文フォント | 12 |
| 所属機関名（英） | 欧文フォント | 10 |
| 要旨（日） | 明朝体 | 10 |
| 要旨（英） | 欧文フォント | 10 |
| キーワード | ゴシック体 | 10 |
| 章題 | ゴシック体 | 12 |
| 節題 | ゴシック体 | 10 |
| 本文 | 明朝体 | 10 |
| 図題/表題 | ゴシック体 | 10 |
| グラフ | 自由裁量 | 自由裁量 |
| 表 | ゴシック体 | 10 |
| 参考文献（日） | 明朝体 | 10 |
| 参考文献（英） | 欧文フォント | 10 |

4-3.　脚注

脚注は、表題、所属機関についての補足説明、内容等の補足説明に限り用いることとします。本文の右弾下に境界を表す横線を引き、その下に記入します。はじめに示したマージンからはみ出さないように、印字位置に注意してください。使用する文字は本文に準じてください。

4-4.　単位

単位はSI単位を使用します。慣用の略語や化学記号は、そのまま使用することができますが、一般的でないと思われる場合は最初に説明を付加してください。

参考文献

文献引用にあたっては、右肩に(1)をつけ、参考文献は本文の末尾にまとめて記載します。文献番号は文中の参照順とします。文字は10ポイント、日本語文献は明朝体フォント、海外文献は欧文フォントとしてください。

例：

1. 金銀花, 岡武俊, 山下裕, 西谷紘一; プラントオペレータの異常診断過程のシミュレーションとエラー分析, 日本プラント・ヒューマンファクター学会誌, Vol.8, No.1, 44-52, 2003.
2. 林喜男ほか; 「人間工学」, 日本規格協会, 115-116, 1981.
3. Arnaut,L.Y., and Greenstein,J.S; Disply/Control Gain a Useful Metric for Optimizing an interface?, Human Factors, 32, 651-663, 1990.